よこはま支部だより

issue 2011.9.1
VOL. 55

社団法人 神奈川県建築士会 横浜支部
THE YOKOHAMA BRANCH, KANAGAWA PREFECTURE SOCIETY OF ARCHITECTS & BUILDING ENGINEERS

CONTENTS

●残暑見舞い
○横浜支部長 山成芳直 p1

●椅子を創る（最終回）
○技術情報委員会 p2

●特集：被災地支援
～東日本大震災～
○福祉部会 下村旭 p4

●横浜支部総会記念講演
～講師：中村勉氏～
○技術情報委員会 p6

●民家めぐり#5
～明治村～
○広報委員会 p7

●近代建築世界一周 No5
～イタリアの旅～
○桜本将樹 p8

●ワイン同好会だより
～第 30 回ﾜｲﾝ同好会開催～ p10

●絵画同好会だより
～H23.6.11 ｽｹｯﾁ会開催～ p11

●テニス同好会だより
～定例・総会報告、春の合宿～ p12

●横浜支部会計報告
～H22 年度収支決算報告～
編集後記 p14

編集 広報委員会
発行 社団法人 神奈川県建築士会
横浜支部事務局 担当：大平

231-0011
横浜市中区太田町 2-22 神奈川建設会館 5F
TEL：045-201-1284 FAX：045-201-0784

残暑お見舞い申し上げます。平素より会員、賛助会員の皆様には支部運営、活動に対して格別のご理解とご協力を賜りまして誠に有難うございます。

横浜支部では去る６月１８日（土）に通常総会が終了し、支部設立から１８年目の活動が開始されたところです。各イベントへの案内・募集についてはメールマガジンや毎月“建築誌”をお届けしている封筒等でお知らせしますのでご興味のあるイベントに是非ご参加をいただけますようお願いいたします。また、神奈川県建築士会ホームページ中の“カレンダー”や“横浜支部ホームページ”にも日々の活動が記載されていますのでご覧くださいませ。

さて、本年正月の建築３団体賀詞交歓会で藤田武、前会長が“今年はコミュニティ・アーキテクト元年といえる一年である。”とお話されました。UIA2011 東京大会に併せて９月２７日（火）に東京国際フォーラムで開催されるシンポジウム（是非、皆様ご参加ください！）をはじめ建築士連合会としてコミュニティ・アーキテクトに対する取り組みが本格化する一年となっております。コミュニティ・アーキテクトの思想、目標等については建築誌でも毎月詳細に記載されていますが一言で申せば『町医者のような建築士』ではないかと思っている次第です。『日常は問題や事件が起こらなければ一見何事も無く過ぎていきます。でも、ひとたび何かが起こればコミュニティに内在する問題が露呈する。』と建築誌１月号で藤本連合会長が奇しくもお話されていましたが震災後の現在、まさに建築士も各地域、専門分野において今後の存在意義が問われている状況であるように思います。（次頁へ続く）

横浜支部においてもミュニティ・アーキテクツの趣旨に沿った活動が少しでも実現できればと考えているところです。

また、今年は電力不足という事態が発生し、皆様にはいつもより暑い夏を過ごされ、ご苦労、ご不便を感じられたことと思います。省エネルギー、環境負荷低減は人類の課題であります。建築士の皆様もクライアントから日々、要望を受けていらっしゃるものと思います。太陽光発電、燃料電池、太陽熱温水器等といった省エネ機器の分野も進歩してきていますが、やはり重要なのは“日本建築が蓄積してきた日本の風土に適した街づくり、建築計画、建築材料、施工方法”であると思っています。我々は各々の業務において建築士の専門性を発揮し、最適解を検討、提案、実施するのが大切であると感じているこの頃です。それらに関した情報収集、共有ができる活動が今後、横浜支部にも求められてくるのではないかと感じています。

震災後、横浜においても３月１１日前から比べると非日常な毎日が続いています。皆様にはお仕事、生活に少なからずご苦労され、ストレスも蓄積していることと思います。横浜支部の活動を支えていただいている活動委員や事務局の皆様も同様のことと思います。しばらくは残暑も続くようですのでお身体には十分留意されましてお過ごしくださいませ。そして各々のペースで時間を見つけて支部活動に参加いただき、情報交換や親睦を図っていただき皆様のお役に少しでも立てれば幸いです。

横浜支部長　山成 芳直

「椅子を創る」～最終回～

椅子の役割とは何でしょう
創る前に壊してみればよかった
材質・仕口・強度・微妙なカーブ
きにいってもらう
自分の家で自分の椅子が待っている
ジャープ
図面通りに丁寧につくる

●　たかが椅子、されど椅子　●

～「椅子を創る」に参加して～

「この会が終わってから始まりにしたい。」
小田原先生の発した最初の言葉でした。この出会いを大切にしたい…。４回の講義を終えてから再結成し、ここからが先生の言う「始まり」＝UIA 2011 東京大会.世界建築会議への出展を狙った大きなスケールの構想が頭にあるようです。

初日から意気込みを感じさせる頼もしい面々が集まっており、コンセプト.デザイン.素材.ディテール.思い思いのプレゼンに対し、小田原先生のにこやかな笑顔からでる鋭いコメント。微妙なカーブやシャープさを指導。素材の限界に挑戦させ、「思いがけない良い作品になる！」「極めて難しいが出来る！」「是非とも商品化しよう！」と、プロのモデル工芸店の名前を出されたりなどしたら、隣にいる者でもやる気が出てしまう。回を重ねる毎に腕があがる。ほめながら理解させる最高の指導者です。

毎回の土産話は、平面と詳細が一枚に重ねられた原寸の設計図、教え子「橘学苑高等学校」の生徒たちが創った独創性あふれる椅子の披露、座ったら吸いつくような離れられない椅子の話、椅子の注文から繋がったその椅子を置く為の住宅の設計依頼の秘話…。
仕事にまつわる話も含め盛り沢山です。

最終回は、大震災で予定日が延期となりましたが、皆、開催日まで準備を怠らずに臨みました。参加者たちも、「いつか本物を創るぞ！」と、胸に秘め散会となった事は言うまでも有りません。

講習会終了からが先生の構想の「始まり」です。講義が終わったのち、参加者の制作図を一枚一枚確認する姿は、知る人ぞ知る姿です。

小田原先生、参加者皆様の今後のご活躍をお祈り致します。

平成２３年８月
（横浜支部　技術・情報委員会　高橋秀行）

被災地支援～東日本大震災～

横浜支部　下村　旭（福祉部会）

石巻市内の惨状

2011 年 3 月 11 日 14 時 46 分頃、三陸沖を震源に国内観測史上最大の M9.0 の地震が発生、その後津波が押し寄せ、東日本に甚大な被害を与えました。多くの被災者の事を考えると、本当に言葉が見つかりません。心からお見舞い申し上げると共に、お亡くなりになられた方々に心よりご哀悼の意を表します。

私は地震時都内におり、なんとかその日の深夜に帰宅できましたが、仮眠を取り、翌朝テレビで見た映像は想像を絶するものでした。黒い津波が堤防を乗り越え、街を、建物を、人々を飲み込む凄まじい光景は今も鮮明に覚えています。それを現地で実際に体験した方々の恐怖と悲しみは果たしてどのようなものであったか…それからというもの、被災の状況、そしてその状況に置かれた方々の思いを、メディアを通してではなく、自分の五感で共有できないかと思うようになり、まずは 4 月 19 日から 21 日までの三日間、石巻市において、避難所の高齢者把握とヒアリング調査のボランティアに参加する機会を得ました。

私の訪問先は鹿妻小学校、湊小学校、住吉中学校の三か所の避難所、早く仮設住宅に移りたい、寒さやトイレ等のストレスのため風邪を引いたり血圧が高くなったりして体調が優れない、家が全て流れてしまった、多くの家族を一瞬にして亡くした…喘息や糖尿病を患っていたり、カテーテルを使用している方も…そんな厳しい状況の中でも被災者の方々は私達を心から歓迎してくださり、これからのこと、家族のこと、そして今の自分の思いというものを時間の許す限り語っていただけたことは、本当にうれしく思いました。

避難所での自衛隊による炊き出し

床下ヘドロの除去

また、避難所での活動以外に災害ボランティアの登録も行い、家屋支援を行いました。震災後の数日間は水が引かず、床下に泥水が浸入したため、臭いだけではなく木造が腐食する恐れがあるので納戸の床を剥がし、ヘドロがどれだけあるかを確認し必要に応じ取り除くことを依頼されました。作業後は被災者の方から味噌焼きおにぎりと三陸ワカメの入ったみそ汁を頂き、東北の方の優しさと逞しさを強く感じることができました。

このボランティア活動は現地のＮＰＯと知り合うきっかけになりました。ちょうど 6 月 26 日から女川町での仮設住宅における全世帯調査のボランティアに参加する機会があり、日時を調整して塩釜から浦戸諸島の桂島にも行くことになりました。

瓦礫撤去の進んだ女川町

まず女川町では鹿児島県の保健師と一緒に仮設住宅を各戸訪問、その家族構成と健康状態、併せて室内のバリアフリーの状況も確認してきました。あるご家族には脳梗塞で

仮設住宅内のトイレと浴室

右半身麻痺になり要介護５という方もいましたが、トイレの手すりが非常に使いにくいことと浴室の段差があるため入浴するのがとても大変であると話されていました。

６月 29 日は塩釜からフェリーに乗り、浦戸諸島の桂島に渡りました。離島は本土と異なり、つい最近まで自衛隊が道路の瓦礫を撤去するに留まり、敷地内の瓦礫は全くの手付かず状態にありました。しかし、5 月下旬からやっとボランティアが入るようになり、仮設住宅も建設が進められるようになりました。復興に向けて少しずつ動き出しています。ただ、街の中を歩くと震災の傷跡がまだ生々しく残っており、被災者が書き残していった「サヨウナラ我が家」の文字を見た瞬間、思わず目頭が熱くなりました。離島の多くは高齢化がかなり進んでいるため、ＮＰＯやボランティアの活動がより求められており、私も今後は浦戸諸島を中心とした支援をしていくことになりそうです。

「サヨウナラ我が家」

バリアフリーの仮設住宅

ちなみに桂島の仮設住宅にはバリアフリー仕様のものがあり、車椅子用のスロープや点字ブロックが設置されていましたが、残念ながら現在入居が進められている段階であるため、内部の見学をすることはできませんでした。桂島区長からお聞きしたところ、室内もバリアフリー仕様になっているとのことでした。機会があれば、ぜひ内部を拝見してみたいと思っています。

桂島から塩釜に戻り少し時間があったため、ＮＰＯの方に案内されて仙台市若林区から亘理町の被災状況も確認してきました。かなり瓦礫の片付けは進んでいましたが、あまりに広大な震災の傷跡にただただ茫然とするしかありませんでした。ただ、あちこちで工事が進められており、間違いなく震災復興が一歩一歩確実に進んでいる事を感じました。

釜石市内の惨状　（広報委員 大西正行撮影）

横浜支部総会記念講演

演題　急ごう！　原発を凌ぐゼロカーボン社会を

講師　中村勉氏　建築家・工学院大学特別専任教授・ものづくり大学名誉教授
㈱中村勉総合計画事務所　所長　（活躍領域その他多数）

平成２３年６月１８日(土)に開催された横浜支部総会の終了後に、横浜メディアセンターを会場にして講演会が催され、会員外も含め百数十名が出席した。

演題の意味するところは、人間活動が人の知恵・技術の発展と称しながら、これらがもたらした驕り・自然破壊を指摘し、３・１１東日本大震災・原発事故により露見した事実を見つめ、建築士として何ができるかを真摯に考えて欲しい、ゼロカーボン建築・都市をデザインしようという呼びかけであった。

その内容は、今回の大震災と原発事故に特化したものからの発想の形をとっているが、産業革命以後の右肩上がりの成長と、とどまるところを知らない経済成長への反省と怒りが感じられるものだった。講師の日常的な研究活動・社会への提言・実践活動などの紹介とこれらが及ぼす社会・自然環境への癒し・優しさなどを語られた。

その主張は、エネルギーを遠くから運んでくることなく、太陽光・太陽熱、バイオマス・ごみ燃料、風力、小水力等を利活用した分散型発電所を多数建設することにより、自然エネルギーは脱原発を担いうるし、巨大なエネルギー企業が重宝がられる仕組みの見直し、１万ｋｗ以下のエネルギー施設を点在させることは実現可能である、というものでした。

まちづくりを考える。都市問題を考える。環境を考える。ＣO2 削減を考える。コンパクトシティを考える。脱車社会を考える。地方人口が減り続けている。高齢化が進んでいる。就労人口が減少している。インフラを公共として考える必要があるのか。駐車場という空地の拡大を蔓延させていることをどのようにとらえているか。木造の校舎は１．3%である。規制の撤廃・制度の改善が急務である。講師が投げかけた指摘は多くかつ重いものがある。

近代化の価値観から低炭素社会型の価値観への転換を図り、いつまでも作り続ける戦後からの住宅政策・持ち家制度からの決別を図り、所有権から利用権への転換も考えなければならない。社会・人間生活は、儲けるためにあるわけではない、自然が本来持つ特性を知って工夫し活用するべきだ。

講演後に懇親会が行われたが、中村講師も参加され、参会者の大勢からの多様な質問に応じたり、ワイングラスを片手に、若い会員との意見交換も精力的になされていた。

（技術・情報委員会　樺澤正夫）

民家めぐり＃５　「明治村：愛知県犬山市」

暦の上ではもう秋、時が経つのは早いものです。明治村といえば観光地であり大河などの撮影に使われたりと、誰もが知るパワースポット。有名処もいいところですが、今回はあえて明治村をピックアップです。
明治村は愛知県北部、犬山市の山域に位置し、車なくしてはアクセスしにくい場所にあるのが難点。昨年秋、その地に初めて足を踏み入れる機会に恵まれました。

明治村といえば「＝帝国ホテル」、というイメージでしたが、いざ入村してみると･･･。
ランドスケープ、とりわけ経路や地形のアップダウンの豊かさに圧倒されます。建物自体は、役所や学校・教会・住宅等々の用途や規模、空間のスケールが多様で、見どころ満載。
ほか、橋梁や街燈、汽車・巡回バスといった公共物や交通機関、家具や調度品等々･･･。
数え上げたらキリがありませんが、これらが周囲の山々や湖に囲まれた併合集落という形をとって、地形や建物配置・動線・時代性と相まって巧みに織り込まれている･･･。
見るだけでも楽しい沢山の建築に加え、時代背景・習慣・生活文化、日本文学といった無形の遺産までもが、あたかも幕の内弁当のように沢山詰め込まれていて、その懐の深さに今更ながら驚ろかされます。まさに「村」＝「文化集落」です。

当日はお休みの日だったこともあって、子ども達が楽しそうに村内を駆け、興味深そうに建物や家具に見入っているのが印象的でした。彼らの目には果たして何がどう映っているのでしょうか。見えたもの・聞こえた音・触った感触･･･、知識に頼らず感じたママを素直に受け入れる･･･。そんな気持ちで村を周遊すると色々なものが見えてくる気がします。

明治村は季節によって色々な表情を見せてくれそうです。今秋は紅葉見物も兼ね、頭をまっさらにして明治日本の遺伝子村を散歩してみるのもいかがでしょう。但し、建物数だけでも 68 棟と半端ではありません。気合いを入れすぎて一度に見ようとすると訳がわからなくなってしまいますからくれぐれもご注意を。　　（広報委員　桶師徳行）

帝国ホテル池越から見た景

隅田川新大橋越しから

天主堂前からの菊ノ世酒造

西郷従道邸から望む聖パウロ教会

帝国ホテル　ホール内観

東松家住宅　土間3層吹抜

森鴎外･夏目漱石住宅　前庭

鉄道局新橋工場､天皇皇太后御料車

近代建築世界一周（Ｎｏ．５）　―イタリアの旅―

①戦没者慰霊碑（コモ湖）

【はじめに】

イタリアはローマ、フィレンツェをはじめ、各地に美しい中世までの歴史的建築物が無数に存在し、さらにアッシジなどの丘の上に建つ小都市はどれも美しく魅力的ですが、今回の旅ではその美しさに匹敵する近代建築に絞って紹介いたします。

【旅の行程】

②ボート・クラブ・ハウス（コモ湖）

５月中旬から 18 日間､フランスのリヨンからミラノに入って、北部を中心に廻り、主に建築家ジュゼッペ･テラーニ、カルロ・スカルパ、アルド・ロッシの建築作品を追いかけました。近代建築の見学だけでも 3 週間以上は必要ですし、イタリアを満喫するには、それ以前の歴史的な建築、小都市、地中海に浮かぶ島々を巡るために 2 ヶ月はほしいところです。

【交通・参考図書】

③カサ･デル･ファッショ（コモ湖）

近代建築のみであればバスや列車で見学することが十分可能ですが、スカルパのブリオン家の墓地へはレンタカーかタクシーが必要です。スカルパの作品集には地図付き作品リストの掲載がありますが、テラーニ、ロッシの作品集には掲載されていませんでした。ちなみにテラーニのコモ湖の作品リストは現地観光局で入手可能です。

【コモ湖畔とテラーニ建築について】

④サンテリア幼稚園（コモ湖）

コモ湖は高級服飾店が並び、有名人の別荘地がある観光地として有名ですが、近代芸術運動イタリア未来派たちの活動拠点となった場所でもあります。当時の未来派のスケッチ（1914）をもとに湖畔に建てられた戦没者慰霊碑（1933）**（写真①）**は活動家たちの気迫に少しだけ触れることができます。また、美しい湖畔の風景にとけ込むボート・クラブ・ハウスの飛び込み台（1931）**（写真②）**はコンクリートの可能性を追求した秀作です。建築家ジュゼッペ・テラーニによる完璧な美しいプロポーションを見せるカサ・デラ・ファッショ（1936）**（写真③）**は有名ですが、同じテラーニの作品である白い外壁、大きなガラスの開口、屋上庭園、ピロティなど、すでに近代建築の典型的手法をもつサンテリア幼稚園（1937）**（写真④）**は必見です。ここでは、そのテラーニによるノヴォコムン（1929）などいくつかの集合住宅や個人住宅のカーサ･フロリコルトーレ（1937）**（写真⑤）**など非常に興味深い作品にも出会えます。

⑤カーサ･フロリコルトーレ（コモ湖）

【イタリア建築のベスト５】

イタリアにおける近代建築の作品数はフランスと比較して、多いとは言えませんが、それぞれの作品の質は非常に高いと言えます。建築単体ではなく、周辺環境を含んで美しい風景を形成していることが特徴です。

１．マラパルテ邸 1938 年（Ａ・リベラ、マラパルテ）（写真⑥）
「青の洞窟」で有名なカプリ島の真っ青な海に突き出た岸壁に建つ住宅で、20 世紀を誇る人類の奇跡の造形です。ゴダールの映画『軽蔑』の舞台にもなり、屋根を利用した大胆な階段、手すりのないフラットな屋上に、軽やかにあしらわれた白い風除、それらの洗練されたデザインは格別です。室内からは海が一望でき、来客のアプローチは海側からボートで寄り付くとのことです。

⑥マラパルテ邸（カプリ島）

２．サンカタルドの墓地 1976-年（アルド・ロッシ）（写真⑦）
世界中の墓地の中でも、これほどまでに静かな死後の世界を表現した場所はなく、墓地の風景はどこか物悲しげで、詩的な風情を醸し出しています。自然の音さえも奪い去り、まるで時間が止まっているような情景で、その中に美しささえ感じます。キリコの絵を思わせる連続した壁柱は、ロッシによる**ガララテーゼの集合住宅 1970 年（写真⑧）**で使われたよりもはるかに効果的です。

⑦サン・カタルドの墓地（モデナ）

３．ブリオン家の墓地 1972 年（カルロ・スカルパ）（写真⑨）
全体の雰囲気から詳細まで緻密に計算された美しいフォルムとそのレイアウトは建築の美を超えています。サン・カタルド墓地とは対照的に内部に暗さは微塵もなく、まるで邸宅の庭を散歩しているかのように、夫妻の棺とその屋根が配置されています。同じスカルパ設計である、コーナーを消失させた美しい**カノーヴァ美術館（写真⑩）**も近くにあり必見です。

⑧集合住宅（ガララテーゼ）

４．カサ・デル・ファッショ 1936 年（ジュゼッペ・テラーニ）（写真③）
夕日が真っ白な大理石の外壁を照らし、ファサードの縦横比１：２の厳格なフォルムで佇む姿がこの上なく美しいです。現在建物は警備隊本部となっており、内部見学の可否は政治状況により変わるため確認が必要です。

⑨ブリオン家の墓地（トレヴィソ）

５．ボート・クラブ・ハウス 1931 年（ジャンニ・マンテーロ）（写真②）
夕日に輝く湖面から細く突き出た斜めのラインが非常に美しい、この彫刻のような飛び込み台は、背後の山の稜線を意識した形状で、美しいコモ湖畔の風景にとけ込んでいます。クラブ・ハウスの会員と仲良くれば、内部も見学可能です。

⑩カノーヴァ美術館（ポッサーニョ）

その他多くの秀作があり、全てを紹介できないのが心苦しいところですが、最後に特筆すべきはフランスのパリなどと同じように、テラーニの作品を含むミラノの集合住宅のデザインが美しいことです。個々のデザインを主張しながらも壁面線がそろっており、街の統一感を保っています。特にバルコニーの個々の細く繊細なラインを用いたデザインと壁面から大きく突出したバルコニーの混在が特徴的です。この美しさが日本ではあまり見ることができない現状が残念です。

参考文献『近代建築世界一周』ADP 出版 桜本将樹

建築士会会員　桜本将樹

「ワイン同好会」だより　～第３０回ワイン同好会を開催して～

ワイン同好会幹事　長井邦夫

第３０回ワイン同好会は４月８日(金)に山手十番館別館にて２２名の参加者のもとで開催されました。大震災直後で、躊躇しましたが、こういう時こそとの考えもあり、開催に踏み切りました。ワインリストは下記に示しましたが、記念すべき３０回に相応しく、フランスワインで構成しました。

先ず、最初はシャンパンで乾杯。一般のスパークリンクより、圧が高く味にシャープさを感じます。ワインの選択は楽しくもあり、難しくもありです。

そして、名解説でお馴染みのソムリエの山本さん(兼・店長)によれば、今回はマルキ・ド・テレム‘９２は峠を越したし、長期熟成タイプのソシアンド・マレ‘０６は逆に早かったとの評でした。選択の過ちを認めつつも、抜栓時期の遅い、早いを実感できたのはワインを知る上では良かったのではないかと思います。もっとも、レストランでは困りますが...。

飲みながらのワイン研修(？)は楽しく、時間の経つのが不思議と早く感じられます。最後に集合写真を撮り、ためらいながらも予定の９時に閉会としました。 外は未だ冷たさの残る夜風でしたが、満開近い桜のトンネルの坂道を下って、帰途に着いたと思います。次回は１１月初旬を予定しています。

ワインリスト

1　ジャン　マリー・トリボー・ブリュット(白)　(仏・シャンパーニュ)
2　マルサネ・ブラン’０６(白)　(仏・ブルゴーニュ)　[作り手：ブリュノ・クレール]
3　シャサーニュ・モンラッシェ・ラ・ベルジュリー’０６(白)
(仏・ブルゴーニュ)[作り手：ダルヴィオ・ペラン]
4　ボーヌ・クロ・デ・ズールシュル’９８(赤)　(仏・ブルゴーニュ)　[ルイ・ジャドー]
5　シャトー・マルキド・テルム’９２(赤)　(仏・ボルドー・マルゴー格付第４級)
6　シャトー・ソシアンド・マレ’０６(赤)　(仏・ボルドー・オーメドック・ブルジョワ級)

「絵画同好会」だより　～平成２３年６月１１日スケッチ会開催～

《ホキ美術館》、昨年１１月、千葉市緑区にオープンした、日本初の写実絵画専門美術館です。昭和の森に隣接した敷地という、自然の一部となれる場所を選び、自然光を展示空間へと 導き入れることで 森の中を散策しながら、絵画を鑑賞しているような状態をつくっています。
今回は「癒しの美術館」といわれているホキ美術館で、ゆっくり作品を鑑賞し、緑豊かな昭和の森で自然を満喫しながら、スケッチを楽しみました。

日建設計による建築デザインは、５つの回廊を組み合わせ､そのひとつは３０m宙に浮いています。新たな美術館建築としてたいへん話題になっています。２００９年のスペイン建築祭では、Future部門として、世界のベスト５に入りました。目で見て美味しく、食べて なお美味しい、ワインと良くマッチして良質な時間を過ごしました。

高橋 伸廣 会員の作品

美術館の1階にある
イタリアンレストランでランチ

東京・西麻布「アポルト」、
片岡譲シェフプロデュースの
本格的なイタリア料理

藤井 利時 会員の作品

テニス同好会だより

定例会報告

・平成２３年６月１１日(土)
練習 PM　5:00～7:00
金沢産業振興センターＡコート　　参加６名
震災後、夜間は使用制限があり利用できませんでしたが、久しぶりの定例会です。午前中から降っていた雨は午後には止んで予定通り行うことができました。

・平成２３年７月９日(土)
練習 PM　5:00～7:00
金沢産業振興センターＤコート　　参加７名
久しぶりのＤコート、急遽参加者が増えて、８月の暑気払いの話が出ました。

・平成２３年８月１３日(土)
練習 PM　3:00～5:00
金沢産業振興センターＡ・Ｂコート参加９名
お盆休みで久しぶりの参加者有りで、楽しいプレーが出来ました。

新杉田にて暑気払いをしました。参加１１名

第四回　横浜支部　テニス同好会（K.Y.T）　総　会　報　告（抜粋）

去る６月２５日（土）テニス同好会の総会を横浜崎陽軒本店アリババにて開催いたしました。

出席者１６名

１．同好会趣旨

あくまでもスポーツの同好会です。仲良く楽しく出来るよう皆さんで協力する。

２．役員　会長　内山　、副会長　廿日出、鈴木

役割：コーチ、コート予約・会計・連絡、記録・写真、ボール管理、企画（試合・合宿）

３．活動計画

１）定期練習

金沢産業振興センター、毎月第二土曜　ｐｍ５：００　～７：００（抽選により変動有）

２）試合予定　　磯子区民大会：団体戦　　５月

各自でペアを組み積極的にテニス大会に参加する

３）合宿

４．その他　意見交換

同好会会員募集中！

テニスに関心のある方どなたでも参加可能です。特に女性大歓迎！お気軽に連絡下さい。
ご連絡の際はメールの場合でもお名前、連絡先の記入お願いします。

連絡先：玉野　045-894-8452　FAX893-6614

春の合宿

初の試みで、千葉県にて春の合宿を開催することにしました。

合宿に参加して

松崎寛一

5 月 14.15 日の 1 泊 2 日、テニス同好会春合宿に参加しました。春合宿の参加は 8 年ぶりとなります。今年は千葉の房総にある生命の森リゾートという場所で 14 名が参加して行われました。
この施設は 330 万㎡の敷地に屋外･屋内スポーツ施設が多数あり、オリンピック選手の合宿にも利用される場所だそうです。

●1 日目は早朝、首都高速大黒 PA エリアに集合し、1 時間 30 分ほどで現地に到着しました。
午前中は竹中強化コーチの練習メニューをこなし、午後はダブルスの試合を行い、個人での順位を競いました。夜は夕食後、コテージで 2 次会を行い、テニスのルールの話題や海外旅行の体験談等で深夜まで盛り上がりました。また内山同好会長により東北の震災についての話もあり、建築物の防災について活発な意見が交わされました。

１日目コートにて

ゲーム風景

夕　食

宿泊コテージにて反省会

●2 日目は、朝から試合となり強い日差しの中、コートを走り回りました。午後には合宿の予定は全て終了し、敷地内のレストランで遅い昼食･反省会。･試合の結果発表と豪華商品の授与となりました。
今回の試合結果は 1 日目は岩本氏が優勝。2 日目は竹中氏が優勝、２位内山会長、３位廿日出氏、私松崎、2 日間の総合優勝は、同点で内山会長と竹中氏の両人となりました。

２日目コートにて

１位　竹中氏

２位　内山氏

３位　廿日出氏、松崎氏

レストランにて表彰式

合宿中は天候に恵まれ、すばらしい環境と施設でとてもリフレッシュできた 2 日間でした。数ヶ月前から準備してくださった合宿幹事の皆様と練習中の冷たい飲み物・2 次会の準備・写真撮影で大変でした担当メンバーの方、ありがとうございました。

横浜支部　平成22年度 収支決算報告

自平成22年4月1日
至平成23年3月31日

収入の部

科目		予算額	決算額	備考
会費	支部交付金	1,500,000	1,500,000	
	賛助会年会費	144,000	144,000	12社（うち1社は2年分を入金）
雑収入	受取利息	1,000	180	(91+71+18)
前期繰越金		119,716	119,716	
雑収入	総会対策積立金を取り崩し	0	500,000	交付金入金の早期化に伴い総会対策積立金が不要に
合計		1,764,716	2,263,896	

支出の部

科目		予算額	決算額	備考
管理費	総会費	500,000	452,969	開催通知・会場費・懇親会費講師謝礼・協力役員交通費など
	委員・幹事会費	165,000	163,852	合同委員会・役員会・正副委員長会議を・会場費を含む
	消耗品・備品費	10,000	3,444	事務用品（ゴム印）振込み手数料等
事業費	総務委員会活動費（支援）	60,000	60,000	委員会開催・見学会等
	技術・情報委員会活動費（支援）	180,000	180,000	委員会開催・勉強会開催
	厚生委員会活動費（支援）	230,000	230,000	福利厚生事業（サークル活動等）を含む
	広報委員会活動費（支援）	130,000	130,000	編集費・会議費・ホームページ更新
	賛助小委員会	40,000	38,633	賛助会運営費用、連絡費用、発送協力謝礼金など
	支部だより印刷費	350,000	274,190	「支部だより」印刷費など（3回）
予備費	予備費	99,716	20,000	関係団体祝金等
次期繰越金		0	710,808	
合計		1,764,716	2,263,896	

編集後記

人との出会いに感謝できる年齢になってきたと感じています。年に１度の大学の OB 会。その時にお会いするだけの先輩。今年、欠席の知らせが気になり、連絡する。６月に弟さんが、旅立たれたとのこと。その弟さんは、メルヘン作家の「すやまたけし」。私は、知らなかった。「中学国語　伝え合う言葉 3」に「素顔同盟」という作品が掲載されているそうです。すやま氏は、不慮の事故により２３歳から車椅子生活。作品は、短編ですが、思いが凝縮され、考えさせられるものばかりです。人の営み、人生を繊細に見つめています。“もっと素直に、生きなさい“と言われているような。。。。
お会いしたかったですが、彼の分身たちは、これからも彼のメッセージを多くの人へ届けることでしょう！！ぜひ、ご覧になって下さい。

編集　広報委員会
編集スタッフ（あいうえお順）
雨森隆子・大西正行・大北晋一郎・大貫　浩・桶師徳行・田川尚吾・玉野直美・丸山幸一